

1学年便り 3月

No11 H27.3.9

いよいよ1学年便りも最終号になりました。1年間はあっという間に過ぎてしまったように思います。春休みは次年度に向けての準備期間です。また、今月は日程にも書きましたが、学年末考査がありました。この考査結果を含め1年間の学習成果＝「評定」が通知されます。頑張った人、もう少し頑張れた人、反省は様々だと思いますが、この反省を来年度に生かして欲しいと思います。2年生は進路実現に於いてとても大切な学年です。気を緩めず頑張りましょう。

3月の行事予定

1日(日)	卒業式
2日(月)	3月1日代休
6日(金)	全校集会・頭髪指導
7日(土)	3月21日代休
11日(水)	保健講演
19日(木)	新入生テスト
20日(金)	終業式



4月の行事予定

6日(月)	始業式
7日(火)	入学式
8日(水)	対面式・頭髪指導
14日(火)	認証式
24日(金)	自己探求説明会



Aコース文理選択(2月4日)

Aコースの文理選択が4日の6時間目にありました。5組～8組までの生徒に対して文系・理系の選択する際の説明がありました。ST・Sコースの説明会は昨年12・1月に終了しました。

まず、進路指導主事の滑川先生から次の話がありました。

文理選択のための3つの視点として

□その1: 将来の目標、めざす仕事・資格から決める

【文系だと有利な職業例】

裁判官…司法試験に合格することが必要。法学系学部卒業後、法科大学院へ進学するのが一般的。

図書館司書…多くの大学の文学部、教育学部が司書課程を設けており、その単位を取れば資格が取れる。

公認会計士…経済全般についての専門家だけに経済学部、商学部などの文系学部出身者が多い。

【理系でしか就けない職業例】

医師…医学部を卒業し、医師国家試験に合格することが必要。

薬剤師…薬学部を卒業し、薬剤師国家試験に合格することが必要。

□その2: 得意教科・科目や興味のある分野から決める

点数がとれる科目＝「得意」ではなく、その教科・科目に本当のおもしろさやワクワク感をもっているかどうか重要です。ちなみに「数学が苦手だから文系」などという後ろ向きな視点からの選択は、後々後悔することになりかねません。

□その3: 趣味や特技、関心のある分野から決める

将来の目標や好きな教科・科目が特にないという場合には、自分が好きな事柄から考えるようにしてみましょう。その場合は自分自身の長所や短所、適性といった、自己分析や自己理解が大切になってきますので自身をしっかりと見つめていきましょう。

次に数学科の深谷先生から理科選択すると就職の選択には物作りの就職に繋がる場合が多い事の説明や2・3年でのカリキュラムについて説明がありました。次に理科科の戸井田先生から主にカリキュラムや学習進度について説明がありました。次に地歴・公民科の永井先生から地理や歴史選択について説明がありました。最後に教務主任の高榎先生から選択する際の注意点がありました。とても分かりやすい説明でした。これから進路に関する選択ですので真剣に考えて下さい。



学年集会(2月18日)

今月はデートDV・薬物講話・行政相談員講話・カタリバなどの多くの集会が予定されています。しっかりした気持ちで、聞いてほしい。講師は何を言っているのか。また言いたいことは何なのか。どうせ同じ時間を共有するならば楽しく過ごす方が良いとは思いませんか。

話す方は真剣に何を話すか。どうしたら分かってもらえるのか？考えて話す準備をしていますのでよく聞いて下さい。

今日話す事は、1年間の反省とこれからのことです。私の1年間の反省は次の通りです。1年間の目標は「退学者をゼロ」でした。残念ながら 現実には退学者が出てしまいました。なぜそんな目標を設定したのかといいますと、今まで本校ではそんな学年はなかった。しかし、そのようなこと出来た他校はあるのです。

ましてやある高校のあるクラスは、1年間、全員、欠席・遅刻・早退のなかったクラスがありました。その先生に聞きました。「どうして、そんなことが出来たのですか？」

みんな、学校が好きなんだ。「おはよう。今日もじいちゃんに会いに来たよ。」と行って、来るんだ。「たまには、休んだらどうだ？」とふざけて言うと「じいちゃんの顔を見ないと落ち着かないんだ。」という。1年間出席簿が真っ白だそうです。辞めるどころか、欠席・遅刻・早退無し。1度忌引きで休んだ生徒は1人いたそうです。

その光景は幸せそうなクラスが想像できるでしょうか。そうやって欲しかったからです。

せつかく何かの縁でこの学校を選んでくれたのです。高校を卒業することは、将来の選択肢を増やすこととなります。高校を卒業しないと社会のルール上で取れない資格がたくさんあります。美容師・調理師・介護士・ほとんどがそうになっています。ですから、自分の将来の生きる生き方を増やすことが出来る。そのことについて、今そのことに気付いてほしいし、残念ながらそのことについて、気付かない生徒がいるわけです。そのことに気付かせたいのです。もっともっとこの学校でいろんなことを学んでほしいのです。友達と色々なことを語り合い、将来のこと。現在の事。恋愛の事。を沢山学んで欲しいのです。学校行事等でも楽しい経験や苦しい経験をして強い人間になって欲しいのです。

次に、「諦めた時が目標を諦めた時です。」たとえば、何かの教科で100点を取りたい。すると、出来ないところが何なのか。出来るようになるためには何が必要なのか？出来ないところを知ることが、出来るようになるための一歩です。ここがわからない。だから教えてください。わからないことがわかる（理解するではなく）、解らない所が、見つけ出す。ということです。また、点を取った後の世界はどんな光景なのか？イメージするのです。そして様々な努力をし、工夫することを学びます。残念ながら、結果100点が取れないこともあります。そこで、なぜ、取れなかったのか。そのことを分析します。また努力・工夫します。出来るまで頑張ります。自分自身が強くなります。

すると、最終的に選択肢は二つになります。続けるか。諦めるか。の二つです。続ける方を選べば、100点の可能性は残ります。しかし、諦めた場合は100点の可能性は全くなくなります。

そこで、大切なことは何のためにこの100点を目標にしたのか？ということです。目標設定の意味です。だから、目標を見つけなさい。と言ってきました。なぜ、目標設定が必要なのか。「我慢することを学ぶことが出来ます。」「強くなれます」 中学校時代の部活動を思い出してください。市内大会優勝するんだ。各ブロック大会に出場するんだとか、県大会に出る。優勝する。などと目標を立てます。そこで、それに向かって、それにあった、つらい練習にも耐え、みんなで協力し、工夫し、我慢する事を覚えてきたわけです。

次は、全員・誰一人評定「1」なく進級して欲しい。来月3月に学年末考査があります。それは1年最後の定期考査です。悔いの残らないように、教科担当の先生が指導してくれた内容をしっかり記憶し考査に臨んでほしいです。

もし、万が一点数が悪かった場合、教科担当の先生に直接行き、「どうしたらいいか相談してください。」教科担当の先生も進級させたい気持ちです。

しかし、指導に乗らない・乗れない・やらない・これはやってはいけないことです。

絶対にやってはいけないことは、教科担当に対して「無視する行為」です。すると評定「1」がつきます。

「1」がつくということは、その科目はダメ。それだけではなく、どうしようもない人です。ということになります。それは、進路に繋がります。就職できません。中学時代は「1」

がついても大丈夫でしたが、高校はそうではありません。それから、欠席の多い生徒も注意です。なぜならば、進路に関して重要になります指定校推薦の場合3年間で20日以内などの条件があります。就職も欠席日数の多い生徒は内定できません。欠席日数は増やすことがあっても減らすことはありません。

反面、皆勤賞といって、3年間、遅刻・早退・欠席がゼロの場合表彰されます。また、これは一つの自己アピールポイントです。健康管理が出来る証明になります。

次に得意なものを見つけてほしい。得意なものは、時間を楽しくしてくれます。また、楽しいことは、毎日を豊かにしてくれます。楽しいことがあると、心が楽になります。

逆に不安があると、毎日が憂鬱になります。つまらなくなります。しかし、その憂鬱をクリアすれば成長することが出来るのです。「どうすれば自分の得意なものが見つかるのか」その方法の一つに「思い込み」の力があります。人間の能力にそれほどの差はありません。もちろん天才的な能力を持った人はいます。そんな人間は一握りです。ほとんどの人間は五十歩百歩の中で抜きに出ることが出来る人間は「自分はやれると思ひ込み、自分を信じることの出来る人間だと思ひます。」どうか、自分を信じこれから進んで行ってください。自分を信じる事が出来るのは、「自分自身だけ」です。少なくとも、私は君たちのことをそう思っています。

最後に君たちは「日本の宝」なのです。これから、様々な事を学びそして、社会に出ていくこととなります。モノをつくったり、社会貢献したり、社会の為に働くわけです。その対価として給料をもらい。家族をつくり、君たちが親になり、子を教育し、次の世代に橋渡しをするわけです。ですから、君たちがいないと、日本が成り立たなくなるわけです。ですから、宝になるわけです。

君たちの幸せは、社会＝日本の幸せなのです。みなさん幸せになるためにこれから頑張りましょう。



デートDV（2月20日）

NPO 法人ウインズネット「ライズ」の代表理事の三富和代様からデート DV についての説明がありました。

DV とはドメスティックバイオレンスの略で力による一方的な支配のことである。彼氏・彼女にだけでは無く、色々なケースがあるそうです。

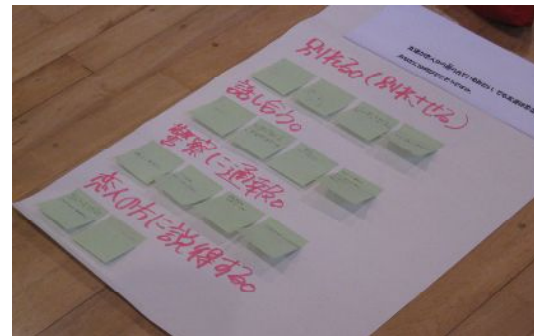
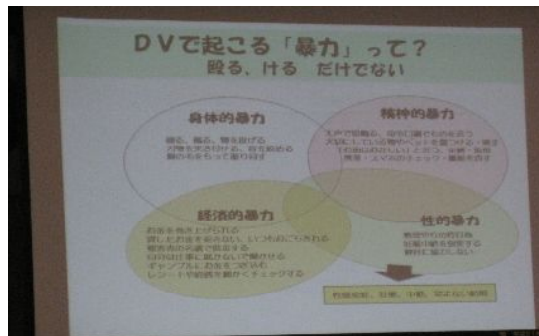
デート DV の被害は女子は5人に1人・男子でも10人に1人の被害があるそうです。本当に身近にある問題です。また、男子でもあることだそうです。その暴力には身体的暴力。精神的な暴力。経済的な暴力。性的暴力があるそうです。

2013年の三鷹のストーカー被害や2014年の熊本の女子高校生殺人事件など本当に怖い話の説明もありました。

DV を回避するためにはアイメッセージに変える方法やロールプレイングによる言い方の違いなどを学びました。

次に臼井貴子様よりロールプレイングによるグループでの活動がありました。

グループ毎にテーマが与えられ、グループ内で話し合い、意見をまとめて発表するというものでした。例えば『友達の恋人が殴られているみたい。しかし友達は否定します。あなたならどうしますか?』という明らか DV と考える質問や『なるべく 2 人でいる時間をつくろう』と恋人からいわれました。どんな気持ちになりますか?それはなぜですか?』という一見、恋人同士ならあって当然のようなテーマです。子ども達はそのテーマについて色々な意見を出し合いまとめていました。



行政相談員講話 (2月23日)

講師は行政相談員の沼田久美子先生と本校の理事長兼行政相談員の小野勝久理事長、そして総務省から茨城行政評価事務所の行政相談官の久世祐司先生、日立市から企画部広聴広報課副参事市民相談室長兼広報係長の若林玲子先生が来校して頂きました。

始めに沼田久美子先生が「人の一生と行政のかかわりについて」説明して頂き、行政相談の仕事にはどんな仕事があるか説明して頂きました。例えば病院の前に横断歩道が無くなかなか渡ることが出来ないのでは何かしてほしい。と行政相談員に相談した結果、現地調査の末、関係役所にお願ひし横断歩道が出来住みややすい街になった。ことの説明がありました。

次に日立市にはボランティアで行政相談員が5名おられます。毎月第3水曜日に役所にいます。そこで、様々な相談にのっています。本校でも各クラスから様々な相談が寄せられました。例えば7組の岡本和磨君からは高萩の寮から本校への通学でバスを利用しているが、十王近くの踏切近くの木がいつも生い茂っておりバスにあたってしまう。という相談や7組の京谷匠君からは日立市の大久保町の消防署裏の信号がいつのまにか押しボタンの信号に代わっていて、案内板が無く困っている。また、5組の菊池陵君は母が以前より日立駅から常陽銀行に向かう途中の「あかま」という食堂の十字路の交差点の信号が、朝特に見えづらいついて、との相談がありました。それぞれの相談に丁寧に相談に乗って頂きました。特に信号機の件は即答できないので調査し後日報告いたします。との回答を頂きました。また、その他のクラスの問題も調査し回答をして頂けるとの大変丁寧な対応でした。

最後に小野勝久相談員兼理事長から国立千葉大学では以前は合格後の事務手続きは現地のみの対応だったが、相談員のおかげで郵便での手続きでも良くなったという説明もありました。ですから何でも気軽に電話でも良いので相談して、より良い生活が出来るようにしてくださいとお話がありました。

大変、学習できました。ありがとうございました。



薬物乱用防止教室講話 (2月23日)

講師は日立ライオンズクラブの青木茂先生から薬物についての説明がありました。0番目として、危険ドラッグについての説明がありました。医薬品は沢山の時間・お金をかけ慎重に作るが、危険ドラッグは法律規制対象外の薬物を規制前につくり、そしてすぐに売りさばく大変恐ろしい薬物で毒物に近いものである。昨年の死亡者は全国で112名にもなる。一昨年は8名だったが相当増えている。

最近の例では薬物で逮捕されているアスカ被告などがいるが、薬物を使用すると初めはごまかしながら薬物を使う。しかし最終的には絶対に依存症になり逮捕される。逮捕された人は「止めたいが止められない。」「捕まってもっとしている。」と普通の犯罪者には無いコメントをするそうです。それほど恐ろしいもので逮捕されることで人間に戻れるということでは。

一番目に依存症の怖さです。依存には2つのパターンがあり1つ目は連続的な一般的なパターンです。2つめは不連続なパターンで止めたつもりでも脳が忘れられず、一度手を出したら止められない。止めたくても止められない薬だということです。特に未成年はこれに陥りやすい傾向がある。煙草や日焼けサロンも同じ事だそうです。

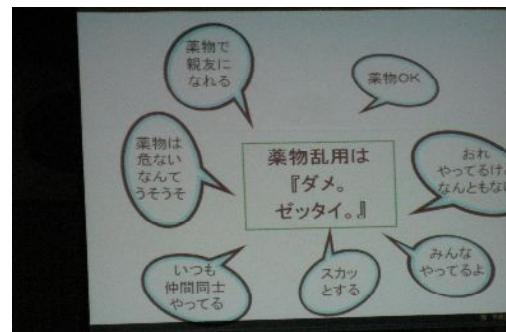
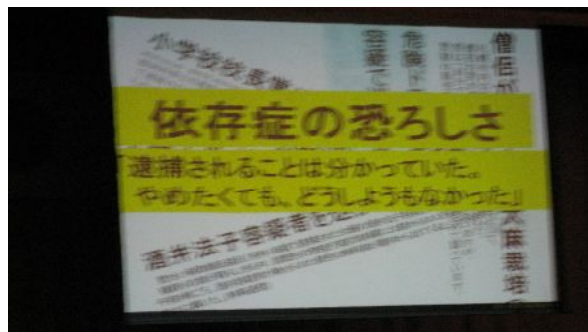
二番目は薬物を断ることで。先輩からの誘いは薬を連想された段階で即断することで。しかしながら「アッシュの同調効果」でダメだと思っても、みんながやっているから大丈夫だと思うと、やってもいいかな?と思ってしまう。そこで必要なことは「自分が好きなこと」が大切だということです。

三番目は得意なことをやることです。「アッシュの同調効果」の逆利用して思い込みをし、自分に自信をつけることが大切です。

最後のまとめとして「危険ドラッグは毒物ドラッグだ」「一度の乱用でも依存症」「即座に断る」このことが大切です。

次に同じ日立中央ライオンズクラブの柴田正四郎先生から薬物に手を出すとどうなるのか。特に煙草では体に悪い。副流煙は発がん性が5倍もある。煙草を吸わない人が癌でなくなるというケースも多い。煙草を吸うと喉頭がんは32.5倍。寿命は10年早く死ぬ。肺にも悪影響が出る。美容にも影響がある。依存症は脳に影響があり、脳細胞が死滅する。また、脳が薬物を要求する。負のスパイラルになる。薬物は犯罪である。大麻は5年以下、覚せい剤は10年以下の刑です。家庭が壊れる。海外はもっと厳しくなっています。中国や東南アジアで覚せい剤を持ち出すと死刑になります。

最後にパソコンから安易に大麻草や危険ドラッグなどを注文しないように。遊びが遊びでなく犯罪に巻き込まれます。日立でもダメな大人が20人も逮捕されました。そのようなことがありました。



ST・S 修学旅行 2 学年報告会 (2月23日)

この日はA・Bコースの2年生が修学旅行中でしたが、一足早くカナダへ修学旅行に行っていたST・Sコースの2年生がST・Sコースの1年生にその体験を報告してくれました。「学校交流会」「班別行動」「ホームステイ」「ホテル・気候」の4つのグループに分かれパワーポイントを用いたり、自分たちの経験をスピーチしたり、実際に修学旅行中に行ったイベントを短縮して実際に見せたりと様々な工夫を凝らして1年生に2年生がカナダで知った文化や経験を伝えてくれました。この企画は生徒が立案・実行したものですので、よりダイレクトに1年生に伝わったと思います。1年生の皆さん。実際に修学旅行に行くときには今日の経験を活かして、より有意義な修学旅行を味わって頂きたいと思います。

特別授業「カタリ場」(2月24・25日)

Aコース・カタリ場 (2月24日)

特定非営利活動団体 NPO カタリバは首都圏の高校を中心に活動している団体です。内容は大学生を中心とするボランティアスタッフ(=キャスト)が、高校を訪問し、自己の体験を伝えながら、高校生達が抱える悩みを聞いたりして、日常生活を送る活力を見いだしてもらうことを目的としています。モットーは「ナナメの関係」。かつてはあった、親でも友達でもない、自分たちの少し先の未来にいる憧れを持てる存在との関係を指します。

生徒の皆さんは受けてみてどうだったでしょうか。中には涙を流している人もいましたね。彼らキャストの皆さんはあの日一日しか会わない君たちのために、数ヶ月も前から、どんな話をしたらいいか、どんな悩みを抱えている生徒が多いか、などと明秀日立生を想像し、企画作りをしていたそうです。時には衝突することもあったそうです。キャストの中には、人には話したくないであろう過去の辛い経験を話し手いる人もいましたね。それは、「もし同じ悩みを抱えている人生の後輩がいたら、寄り添いたいから」だそうです。

余計なお節介と受け取る人もいるかもしれませんが、その余計なお節介に救われる人もいたはず。現代の社会では人間関係の希薄化やネット上のコミュニケーションへの依存から、面と向き合って「語る」機会が減りつつあるのではないのでしょうか。昔はいた近所のお節介な存在。自分には関係ない存在へのお節介が今や、意図的に導入しないとイケない世の中なのです。この特別授業「カタリ場」を機に、友人と、先輩と、後輩と、家族と、そして我々教員と多く「語る」ことをはじめてみましょう。



Bコース・カタリ場 (2月25日)

カタリバの開始当初は「どのようなことが行われるか」、「どのような講師の方がいるのか」と不安が感じられましたが、グループ毎に話を始めると生徒達の顔から笑顔が増え、会話が弾むようになりました。現在の生徒が感じている悩み、行動など講師の方々の経験を踏まえながらのお話で生徒達は釘付けになって耳を傾け真剣に話を聞いていました。カタリバが終わると生徒からは「楽しかった」「もっと話したかった」などの声が沢山聞こえてきました。生徒達も新鮮な気持ちで取り組む事が出来、とてもよい経験が出来たと思います。この経験を活かしてこれからの高校生活をより有意義なものにして頂きたいと思います。



ST・Sコース・カタリ場 (2月25日)

今年で三回目となるカタリバですが、コース毎に目標を見据えて開始したのは初めてのようです。ST・Sコースでは大学進学を見据えた上で、進路実現のためにどのようなことを考え、行動していくかということ先輩と話し合いました。国境なき医師団に参加した先輩など、様々な経歴や悩みを持つ先輩達に自分の進路や現状を語り、進路実現の糸口を得た生徒もいるようです。このまま、しっかり各自の進路を実現して行って欲しいと思います。

